

2017 年第 177 号
(2017.12.5)

2017 年/2018 年 年末年始 (2017 年 12 月 23 日～2018 年 1 月 3 日) の旅行動向

海外旅行人数は過去最高の 70.4 万人
旅行への意欲は高く、国内旅行人数も増加
国内旅行人数 2,957.0 万人 (前年比 +0.9%)
海外旅行人数 70.4 万人 (前年比 +2.8%)

12/19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1/1	2	3
火	水	木	金	祝	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水

調査対象期間 (出発日基準)

JTB は、年末年始に出発日基準で 12 月 23 日 (祝) ～ 1 月 3 日 (水) に 1 泊以上の旅行に出かける人の旅行動向の見通しをまとめました。

この調査は、旅行動向アンケート、経済動向、業界動向や航空会社の予約状況、JTB グループの販売状況などから推計したもので、1969 年に調査を開始して以来、今年で 49 回目となります。調査結果は以下の通りです。

(表 1) 2017 年/2018 年 年末年始旅行動向推計数値

	2017/2018 年 年末年始 推計値	前年比	前年増減	2016/2017 年 年末年始 実績推計	前年比
総旅行人数(延べ)	3,027.4 万人	+1.0%	+28.9 万人	2,998.5 万人	▲2.0%
国内旅行人数	2,957.0 万人	+0.9%	+27 万人	2,930.0 万人	▲2.2%
海外旅行人数	70.4 万人	+2.8%	+1.9 万人	68.5 万人	+9.5%
国内旅行平均費用	31,900 円	+3.1%	+1,000 円	30,900 円	▲9.6%
海外旅行平均費用	206,000 円	▲0.4%	▲1,000 円	207,000 円	▲4.6%
総旅行消費額	1 兆 883 億円	+3.9%	+411 億円	1 兆 472 億円	▲9.7%
国内旅行	9,433 億円	+4.2%	+379 億円	9,054 億円	▲11.6%
海外旅行	1,450 億円	+2.3%	+32 億円	1,418 億円	+4.5%
平均旅行日数	3.6 日	0.0 日	0.0 日	3.6 日	▲0.2%

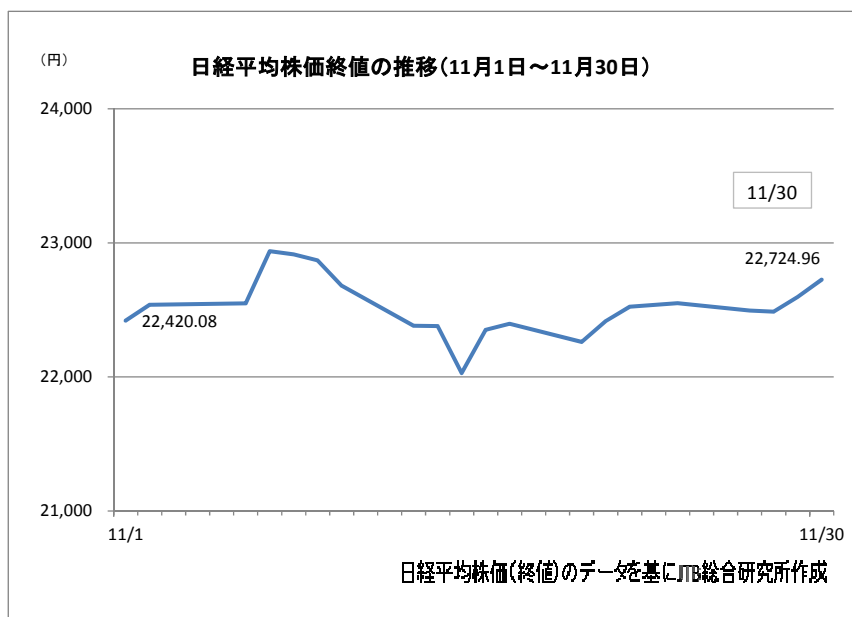
- * 旅行人数は延べ人数。平均費用は一人 1 回あたりの費用
- * 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数 (観光および帰省目的の旅行に限る)
- * 海外旅行人数は出国者数 (業務目的の旅行を含む)
- * 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
- * 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ、旅行先での交通費・宿泊費・食費を含む
- * 対前年比は小数点第二位以下を四捨五入

<社会経済環境>

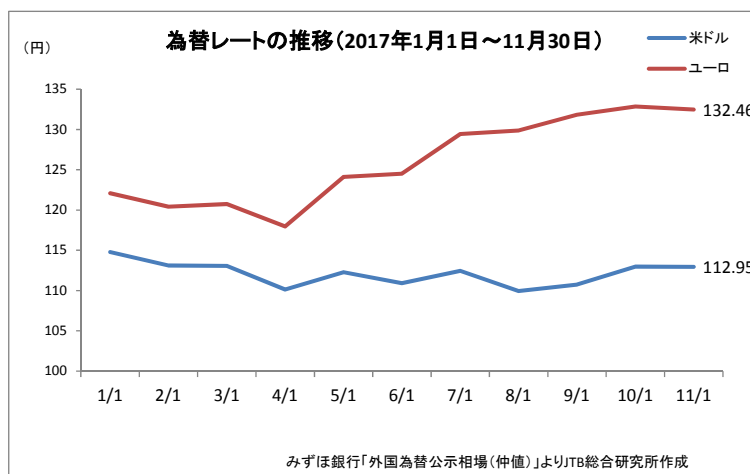
1. 社会経済環境と消費の基調

このところの日本の景気は緩やかな回復基調が続いています。内閣府は今年9月の景気動向指数（C I、2010年=100）の基調判断で「改善を示している」を11か月連続で据え置き、2012年12月から続く景気回復局面は58か月連続となり、「いざなぎ景気（1965年11月～70年7月）」を超えたと発表しました（11月8日速報値発表）。上場企業の2017年4～9月期決算では、前年同期より売上高も純利益も増えた企業は主要100社のうち約8割を占め（11月17日日本経済新聞調査）、またここ1か月の株価は、22,000円台を超えて推移し、為替レートは、対ドル、対ユーロについては年初以来小幅に変動しています（図1、2）。一方、民間シンクタンク4社が公表した2017年の冬のボーナスの見通しでは、小幅ながら3年ぶりのプラスに転じると予測しています。しかしながら生活者の実感としては、賃金の伸びが鈍く景気回復の実感は薄く、将来への不安から、支出に関しては慎重な態度が当面続くと考えられます。

（図1）日経平均株価の推移（2017年11月）



（図2）為替レート(対ドル、対ユーロ)の推移(2017年1月～11月)



2. 今年の年末年始の旅行を取り巻く環境と生活者の旅行意向

今年の年末年始の休暇は、暦通りならば、12月30日（土）から1月3日（水）の5日間ですが、仕事納めを12月28日（木）とするところも多く、またメーカーなどでは1月4日（木）、5日（金）を休みにする企業もあります。今年は、クリスマスを含む三連休こそありませんが、10連休以上の長めの休暇取得も可能な日並びといえるでしょう。

総務省発表の家計調査報告で二人以上の世帯の1世帯当たりの消費支出における宿泊料とパック旅行費を見てみると、8月は、宿泊料は前年同月比▲8.6%、パック旅行費は▲5.7%、9月は、同▲14.1%、同▲0.9%、10月は、同+3.3%、同▲27.7%となっており、毎月の家計においては旅行に関する費用は節約傾向です。一方で、今年のゴールデンウィークやお盆のピーク時の鉄道や航空機の予約は好調でした。また、JTBが毎年実施している年末年始の旅行に関するアンケートでも、今年の年末年始に「旅行に行く」「たぶん行く」と回答した人は昨年より増加しています。同アンケートの「昨年と今年の年末年始の違い」では、「昨年より休みが取れそうにない」は4.2%（昨年差▲7.4ポイント）で、昨年より減少しました。収入に関しては、「昨年より収入が増えた」は12.0%（同+2.9ポイント）で、「昨年より収入が減った」は8.4%（同▲2.6ポイント）となっています。また、「昨年よりお金をかけて豪華に過ごす予定」（10.2%）は、「昨年よりお金をかけず質素に過ごす予定」（6.6%）を上回っています（表2）。一方、「今後一年間の旅行支出に対する意向」では、「支出を減らしたい」が昨年より3ポイント増加しました（表3）。

今年の年末年始の旅行は、家計の節約傾向は続くものの、昨年より長い休暇が取りやすく、冬のボーナスも増える見込みであることから、この期間に限っては節約度を少し緩め、休暇を楽しむ傾向と考えられます。

（表2）昨年と今年の年末年始の違い（複数回答）

	%	昨年差
昨年より休みが取れそうにない	4.2	▲ 7.4
昨年より長く休みが取れそうだ	4.2	▲ 5.5
昨年より遠距離の旅行に行く	6.0	+0.8
昨年より近距離の旅行に行く	3.0	+1.1
昨年と同じ日数の旅行に行く	12.6	+2.9
昨年より旅行日数を増やす	4.2	+1.0
昨年より旅行日数を減らす	3.6	+2.3
昨年より収入が減った	8.4	▲ 2.6
昨年より収入が増えた	12.0	+2.9
昨年よりボーナスが減りそうだ	0.6	▲ 4.6
昨年よりボーナスが増えそうだ	4.8	+0.9
昨年よりお金かけず質素に過ごす予定	6.6	新設
昨年よりお金をかけて豪華に過ごす予定	10.2	新設
特に違いはない	38.3	+2.2

（表3）今後1年間の旅行の支出に対する意向（調査月ベース）

（ ）は前回との差

		(2017/2018)	(2016/2017)	(2015/2016)	(2014/2015)
支出を増やしたい		13.2 (▲2.5)	15.7 (+3.9)	11.8 (+0.8)	11.0 (+1.2)
同 程 度	単価を減らし回数を増やす	8.8 (+0.9)	7.9 (▲0.4)	8.3 (+0.2)	8.1 (±0.0)
	単価を増やし回数を減らす	5.1 (+0.9)	4.2 (±0.0)	4.2 (+0.1)	4.1 (▲0.7)
	単価も回数も同程度	40.0 (▲0.3)	40.3 (▲0.7)	41.0 (▲0.2)	41.2 (+2.5)
支出を減らしたい		27.9 (+3.0)	24.9 (▲1.9)	26.8 (▲1.2)	28.0 (▲4.8)

* アンケート結果は無回答があるため単一回答でも合計100%にはなりません。

＜2017年～2018年 年末年始旅行動向予測＞

（海外旅行）

海外旅行人数は70.4万人（前年比+2.8%）、海外旅行平均費用は、206,000円（前年比▲0.4%）
 出発日のピークは、12月29日（金）、30日（土）。1月2日（火）、3日（水）の年始発も多い

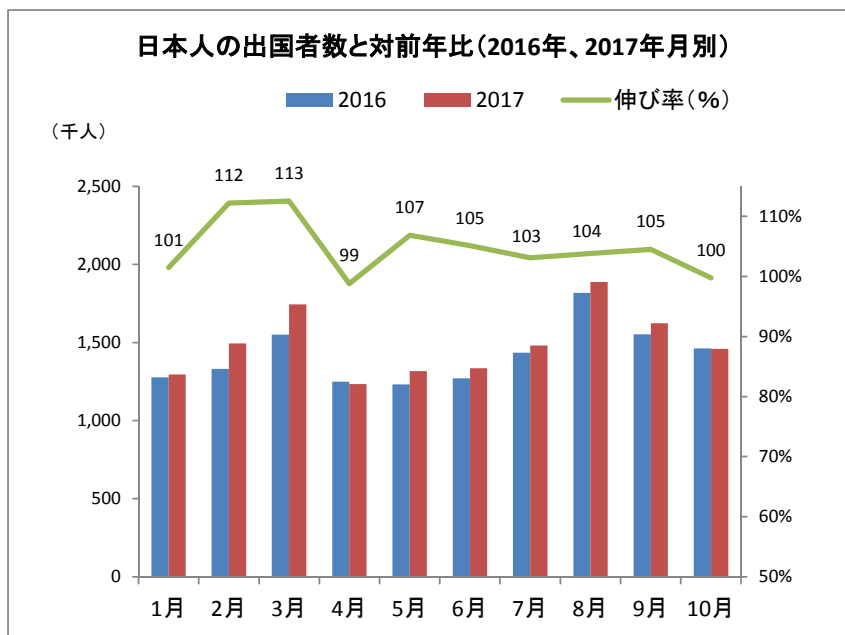
2017年の日本人の出国者数は、1月から10月までの累計で対前年比4.9%増の1,487万8,200人となり、ほぼ毎月、前年同月を上回って推移しており（日本政府観光局11月発表）（図3）、比較的堅調といえるでしょう。為替レートはほぼ前年並で推移しました。一方、昨年 of 年末年始は0円だった燃油サーチャージが今年の2月から復活していますが、2月以降の海外旅行者数に影響が出ていないことから年末年始の旅行についても影響は少ないとみられます（表4、表5）。

今年の年末年始の海外旅行人数は過去最高の70.4万人と初の70万人台を超えると予測します。出発日のピークは、12月29日（金）、30日（土）と予測しますが、航空券や旅行代金が安くなる年始の1月2日（火）、3日（水）発も多くなっています。方面別の旅行人数予測では、航空座席供給量が減少しているグアム・サイパン以外、全方面でプラスまたは前年並みとなっています。

年末年始の海外旅行人数は2013年が過去最高でした。13年以降為替が円安に転じたことや国際情勢などで減少が続きましたが、この間、LCC（格安航空会社）の路線の増加やカジュアルなクルーズ船による船旅が日本にも広がり、訪日外国人だけではなく日本人の海外旅行にも選択肢を広げたといえるでしょう。

海外旅行平均費用については、近年LCCの路線の広がりや割安な航空運賃が増えていること、アジアなど近距離志向が高まっていることや、方面によってはパッケージ旅行の代金が1月2日頃より下がり、料金の安い時期を選んで旅行する人も多いとみられることから、206,000円（前年比▲0.4%）と予測します。

(図3) 日本人の出国者数と前年比



出典：日本政府観光局発表データを基にJTB総合研究所作成

(表4) 各年 11 月 25 日の為替レート(単位:円)

(東京外国為替相場/T.T.S 三菱東京UFJ銀行)

	100韓国ウォン	1 香港ドル	1 台湾ドル	1 中国元	1 米国ドル	1 ユーロ
14 年 11 月 25 日 (火)	10.63	15.22	3.82	19.19	118.07	146.70
15 年 11 月 25 日 (水)	10.90	16.23	3.76	19.36	123.43	131.92
16 年 11 月 25 日 (金)	9.86	15.10	3.56	16.66	114.78	121.56
17 年 11 月 24 日 (金)	10.48	14.70	3.69	17.24	112.47	133.45

(表5) 燃油サーチャージ (日本航空の場合、往復、単位:円)

航空券発券日	韓国	中国・香港・台湾	グアム	ハワイ	タイ・マレーシア・シンガポール	北米・欧州・オセアニア
14 年 12 月～15 年 1 月	4,000	11,000	13,000	27,000	21,000	42,000
15 年 12 月～16 年 1 月	600	3,000	4,000	8,000	6,000	14,000
16 年 12 月～17 年 1 月	0	0	0	0	0	0
17 年 12 月～18 年 1 月	600	3,000	4,000	8,000	6,000	14,000

JTBの海外パッケージツアー「ルックJTB」の予約状況を見ると、ハワイやシンガポールなどでは、年末の出発に加えて、1月3日(水)の料金の下がる時期を選んで旅行する人も多そうです。ヨーロッパ方面は復調し、昨年直行便が就航したスペインなどが人気です。また、9月に日本航空が成田空港ーメルボルン線を開設し、12月にはカンタス航空が関西空港ーシドニー線を増便することもあり、オーストラリア方面の予約も好調です。

（国内旅行）

国内旅行人数は 2,957 万人（前年比+0.9%） 国内旅行平均費用は 31,900 円（前年比+3.1%）

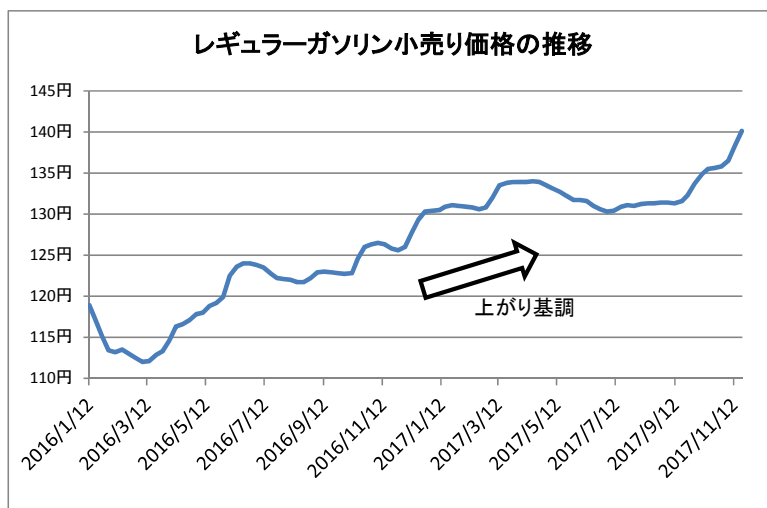
出発日は 12 月 30 日（土）が多いが 1 月 1 日（祝）発も

当社のアンケートによると、国内旅行の旅行日数は、昨年より 1 泊 2 日が減少し、2 泊 3 日や 3 泊 4 日が増加しています。昨年より少し長めの旅行をする人が増えそうです（表 12）。利用宿泊施設では、「夫や妻の実家」が多く、帰省が多くなりそうです。一方、「ホテル」28.5%（昨年差+4.2 ポイント）、「旅館」15.2%（同+1.0 ポイント）も増加しており、今年は実家以外に泊まる旅行にも期待できそうです（表 7）。利用交通機関については、ガソリンの価格が上昇基調ではありますが（図 4）、「乗用車」が 69.0%と昨年から 2.1 ポイント増加し、「高速/長距離バス」は 3.2%（昨年差▲4.9 ポイント）、「格安航空会社（LCC）」は 1.3%（同▲0.1 ポイント）となっています。また鉄道は、「JR 新幹線」が 16.5%（昨年差+2.3 ポイント）、「JR 在来線・私鉄」が 12.0%（同+3.2 ポイント）となっています（表 8）。旅行先では、「東北」と回答した人が増えています（表 10）。JTB の宿泊予約状況を見ると、山深い秘湯や、スノーシューツアーなど冬の屋外アクティビティができる地域が人気で、冬の東北の魅力が広がってきたことが感じられます。

「国内旅行についての考えや気持ち」についてのアンケート結果でも、「泊まってみたい話題の宿泊施設が増えた」や「乗ってみたいと思う観光列車が増えた」と回答した人が多くなりました（図 5）。近年は、古民家や歴史的建造物を活用した宿や、豪華なカプセルホテルなど多様な宿泊施設が増え、観光列車もバラエティに富んでいます。このような選択肢の多様化も旅行の需要を活性化させている一因と考えられます。

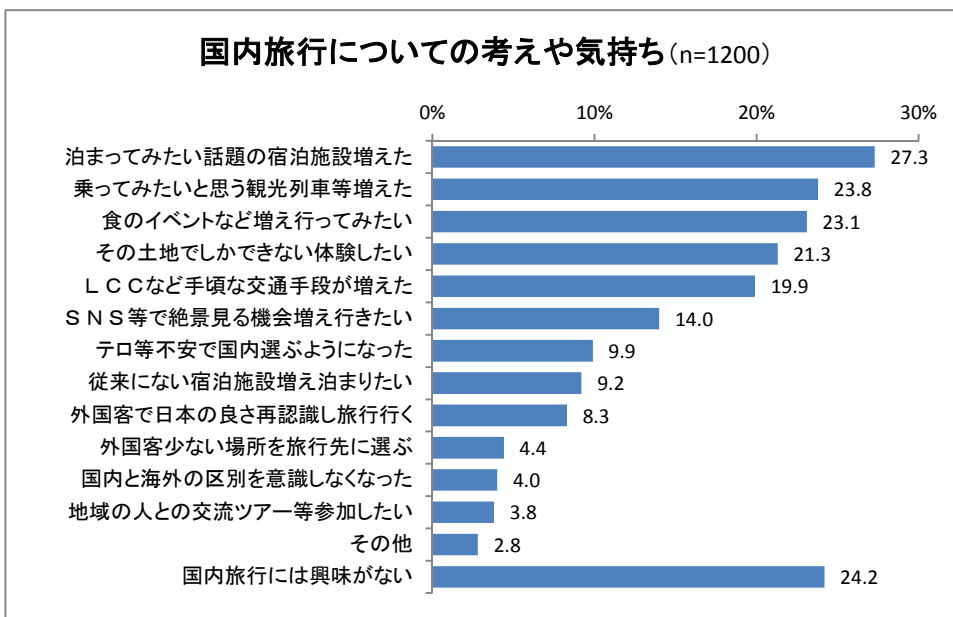
今年の年末年始は、帰省したり、少し長めの旅行をしたりする人も増えそうであることから、国内旅行人数は 2,957 万人（前年比+0.9%）、国内旅行平均費用は 31,900 円（前年比+3.1%）と予測します。

（図 4）レギュラーガソリン小売価格の推移



出典：経済産業省「石油製品価格調査」より JTB 総合研究所作成

(図5)国内旅行についての考えや気持ち(複数回答)



<生活者アンケート調査方法>

調査地点： 全国 200 地点、各層に比例配分
調査実施期間： 2017 年 11 月 2 日～11 月 14 日
調査対象： 全国 15 歳以上 79 歳までの男女個人
サンプル数： 1,200 名 (1 地点 6 名×200 地点)
調査内容： 2017 年 12 月 23 日から 2018 年 1 月 3 日に実施する 1 泊以上の旅行
調査方法： 専属調査員による個別訪問調査 (100%回収)

<報道関係の方からの問い合わせ先>

JTB 広報室 03-5796-5833

(表6) 年末年始(2017/12/23~2018/1/3)海外旅行人数 推計

(単位:千人)

	2017/2018	前年比	2016/2017	前年比
総数	704	+2.8%	685	+9.6%
アジア合計	462	+3.8%	445	+11.8%
韓国	102	+5.2%	97	+29.3%
中国	96	+3.2%	93	+9.4%
香港	38	+5.6%	36	+9.1%
台湾	70	+2.9%	68	+7.9%
タイ	41	+2.5%	40	+8.1%
シンガポール	34	+3.0%	33	+3.1%
インドネシア	14	±0.0%	14	+7.7%
マレーシア	14	±0.0%	14	▲ 6.7%
その他	53	+6.0%	50	+11.1%
北米合計	56	+1.8%	55	+5.8%
米国本土	51	+2.0%	50	+4.2%
カナダ	5	±0.0%	5	+25.0%
ハワイ	63	+1.6%	62	+5.1%
グアム・サイパン	29	▲ 9.4%	32	±0.0%
欧州合計	54	+1.9%	53	+3.9%
大洋州合計	28	+3.7%	27	+17.4%
オーストラリア	16	+6.7%	15	+15.4%
ニュージーランド	4	±0.0%	4	+33.3%
南太平洋	8	±0.0%	8	+14.3%
その他(中近東・アフリカ・中南米等)	12	+9.1%	11	+10.0%

<アンケート結果（表7）～（表14）>

(表7) 利用宿泊施設
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
旅館・ホテル・民宿・ペンション	47.5	+2.9
ホテル	28.5	+4.2
旅館	15.2	+1.0
民宿・ペンション・公営施設等	3.8	▲ 2.3
実家	45.6	+0.3
夫や妻の実家	39.9	+2.7
単身赴任で家に戻る	-	▲ 1.4
独身で親元に戻る	5.7	▲ 1.1
友人・知人の家	2.5	+0.5
その他	3.2	▲ 2.9

(表8) 利用交通機関
(海外旅行を除く、複数回答)

	%	昨年差
乗用車	69.0	+2.1
JR新幹線	16.5	+2.3
JR在来線・私鉄	12.0	+3.2
航空機	12.0	+3.2
従来の航空会社	11.4	+3.3
格安航空会社(LCC)	1.3	▲ 0.1
高速/長距離バス	3.2	▲ 4.9
貸切バス	1.9	▲ 0.1
フェリー・船舶	0.6	▲ 2.7

(表9) 同行者
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
家族づれ	70.9	▲ 0.7
子供づれ(中学生まで)	36.1	▲ 1.8
夫婦のみ	13.9	▲ 3.6
それ以外(母娘、三世代等)	16.5	+0.2
家族と友人・知人	7.6	▲ 0.5
友人・知人	7.6	▲ 1.2
団体(職場など)	0.0	▲ 0.7
ひとり	8.2	▲ 1.2
その他	5.7	+1.4

(表10) 旅行先
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
北海道	5.1	▲ 1.7
東北	10.8	+4.7
関東	23.4	▲ 5.6
甲信越	8.9	+0.8
東海	13.9	+3.1
北陸	2.5	▲ 2.2
近畿	13.3	+0.5
中国	7.6	+2.2
四国	1.9	+0.5
九州	10.1	▲ 2.0
沖縄	2.5	▲ 0.2

(表11) 旅行目的
(複数回答)

	%	昨年差
毎年恒例なので	48.7	▲ 4.0
実家で過ごすため	31.6	▲ 8.2
家族や友人と一緒に過ごす	22.2	▲ 7.6
リゾート・温泉等でゆっくり過ごす	19.6	+6.8
自然や風景を楽しむ	13.9	+3.8
この時期しか一緒に旅行できない	10.8	+0.6
おいしいものを食べる	9.5	+1.4
正月情緒を味わう	8.9	+0.1
家にいてもつまらない	6.3	+0.9
テーマパーク等を楽しみたい	4.4	▲ 0.3

(表12) 旅行日数
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
1泊2日	34.8	▲ 1.0
2泊3日	30.4	+3.4
3泊4日	17.7	+0.2
4泊5日	7.0	+0.9
5泊6日	3.8	▲ 3.0
6泊7日	1.3	▲ 0.8
7泊8日	0.6	▲ 1.4
8泊以上	3.2	+1.8

(表 13) 旅行の出発日【最も遠くへ行く旅行】
(海外旅行を除く 単一回答)

	%	昨年差
12/22(金)以前	3.8	▲ 0.3
12/23(祝)	3.8	+0.4
12/24(日)	1.9	▲ 0.1
12/25(月)	1.3	+0.6
12/26(火)	1.9	▲ 6.2
12/27(水)	2.5	+1.9
12/28(木)	5.7	▲ 1.1
12/29(金)	11.4	▲ 0.1
12/30(土)	20.3	+6.7
12/31(日)	18.4	▲ 3.3
1/ 1 (祝)	12.0	+4.6
1/ 2 (火)	8.9	▲ 2.0
1/ 3 (水)	7.6	+0.2

(表 14) 旅行に行かない理由
(複数回答)

	%	昨年差
いつも家でゆっくりしているから	50.3	▲ 5.3
混雑するから	33.1	▲ 0.3
旅行費用が高い	21.2	▲ 0.6
仕事などで休暇が取れない	18.7	+0.1
親族が近くにいる	14.4	▲ 1.4
なんとなく	10.3	▲ 0.1
家庭の事情で家を離れられない	8.5	▲ 0.9
家計の制約	8.4	▲ 0.7
同行者と休日が合わない	8.1	▲ 0.4
旅行以外にやりたいことがある	5.9	▲ 0.5
健康上の理由で	4.2	▲ 0.7
昨年より家計が苦しくなったから	3.9	▲ 0.5
今後の生活が不安	3.0	+0.5
ボーナスが減ったから	1.0	+0.4
休みの日並びが悪いから	0.5	▲ 0.0
地震や親族が震災等で被災したから	-	▲ 0.2

* アンケート結果(表7)～(表 14)は無回答や小数点以下の端数処理のため単一回答でも合計100%にはなりません。

(表 15) 2000 年～2017 年 年末年始(12/23～1/3)発表数値の推移 * 調査開始は 1969 年

	旅行人数(万人)			一人あたりの旅行費用 (円)		総消費額 (億円)	旅行日数 (日)
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年増減
2000/2001	2,988.5	2,923.0	65.5	36,766	223,284	12,209	3.5
	108.4	107.8	142.1	108.2	100.5	119.3	▲0.2
2001/2002	3,022.7	2,972.7	50.0	37,216	216,927	12,148	3.7
	101.1	101.7	76.3	101.2	97.2	99.5	+0.2
2002/2003	2,925.4	2,865.3	60.1	35,390	225,170	11,494	3.9
	96.8	96.4	120.2	95.1	103.8	94.6	+0.2
2003/2004	2,929.6	2,871.0	58.6	34,576	224,940	11,245	3.7
	100.1	100.2	97.5	97.7	99.9	97.8	▲0.2
2004/2005	2,935.8	2,873.9	61.9	34,472	195,923	11,120	3.6
	100.2	100.1	105.6	99.7	87.1	98.9	▲0.1
2005/2006	2,993.1	2,930.3	62.8	34,093	199,449	11,243	3.8
	102.0	102.0	101.5	98.9	101.8	101.1	+0.2
2006/2007	3,004.8	2,940.0	64.3	34,160	210,510	11,397	3.8
	100.4	100.3	102.4	100.2	105.5	101.4	±0.0
2007/2008	2,991.1	2,930.3	60.8	34,210	217,700	11,348	3.9
	99.5	99.7	93.8	100.1	103.4	99.6	+0.1
2008/2009	2,982.3	2,923.4	58.9	33,610	227,400	11,165	3.7
	99.7	99.8	96.9	98.2	104.5	98.4	▲0.2
2009/2010	2,915.5	2,859.2	56.3	32,330	194,400	10,338	3.6
	97.8	97.8	95.6	96.2	85.5	92.6	▲0.1
2010/2011	2,973.6	2,908.1	56.9	31,140	203,100	10,324	3.5
	102.0	101.7	101.0	96.3	104.5	99.9	▲0.1
2011/2012	2,964.9	2,899.4	65.5	30,670	201,800	10,214	3.6
	99.7	99.7	115.1	98.5	99.4	98.9	+0.1
2012/2013	2,992.7	2,924.6	68.1	30,800	207,000	10,418	3.8
	100.9	100.9	104.0	100.4	102.6	102.0	+0.2
2013/2014	3,053.0	2,983.1	69.9	32,000	217,000	11,063	3.8
	102.0	102.0	102.6	100.4	104.8	106.2	±0.0
2014/2015	3,052.6	2,987.0	65.6	32,000	222,000	11,014	3.8
	100.0	100.1	93.8	100.0	102.3	99.6	±0.0
2015/2016	3,058.5	2,996.0	62.5	34,200	217,000	11,603	3.8
	100.2	100.3	95.3	107.0	97.7	105.3	±0.0
2016/2017	2,998.5	2,930.0	68.5	30,900	207,000	10,472	3.6
	98.0	97.8	109.5	90.4	95.4	90.3	▲0.2
2017/2018	3,027.4	2,957.0	70.4	31,900	206,000	10,883	3.6
	101.0	100.9	102.8	103.1	99.6	103.9	±0.0